

賢く 優しく 遅しく



志木三小だより

学校運営協議会スローガン「ともに愛そう わがまち わが学校」

志木市立志木第三小学校

令和4年5月27日

志木市柏町3丁目2番1号

TEL 048-471-1062

知的好奇心を掘り起こす～発掘現場見学～

校長 関根 久美子

志木三小に着任したとき、学校の周りに「坂が多いな」と感じました。すぐ隣に志木中学校があるけれど、「なんだか位置関係が特殊」と思い、「なぜだろう」と感じていました。1年勤務する中で、志木三小が「柏の城」の跡地にあることがわかりました。地図を眺めると、志木三小と志木中の周りの土地の様子が、丘城の様相を思い起こさせます。

最近になって、すぐ近くの空き地が整備されて、「どうなるのかな」と思っていたら、なんと、発掘が始まりました。志木三小が「柏の城」の跡地にあることを考えると、遺跡があっても当然のことだと思います。近くには、お堀の遺構などが見つかっています。

3年生は地域見学の途中に、この発掘現場を見学させていただきました。埋蔵文化財保管センターに打ち合わせに行くと、たくさんの発掘土器が、所狭しと並んでいました。学区にこんなに貴重な文化財が保管されている場所があるのは、うれしいことです。是非、見学に行ってみてはいかがでしょうか。

センターの皆さんのご配慮で、子供たちは、興味深く現場を見学しました。実際の発掘の様子を見学し、発掘された土器を見せていただきました。時間が足りないくらいでした。センターの方の「何か質問はありませんか」の問いに「この丸い穴の跡はどうして柱だとわかるのですか」「どうして、かまどだとわかるのですか」など、大人でも疑問に思う質問がいくつも出ました。センターの方に一つずつお答えいただきました。

「実物を見ること」「実際に体験すること」で、子供たちの知的好奇心は掘り起こされます。大人が思いもよらない、「知」への意欲が掘り起こされます。

子供たちの中には、発掘や土器、歴史にはまったく興味がない子もいたはずですが、ほとんどの子がそうだったのかもしれませんが。けれども、「土器」を一つ見つめるだけで、「どの年代のものなのか」「その土器を使った人は何を着ていたのか」「どんな生活をしていたのか」「何を食べていたのか」「その時、環境はどうだったのか」「社会の仕組みはどうなのか」など、いろいろな「疑問」がわいてきます。それを、今は「そのまま」にしていたとしても、何年か後に「調べる」「解決する」子供がいるかもしれません。実際に「見る」「触れる」ということは、学びの「幅」を広げ「豊かさ」を与えてくれます。

私自身、恥ずかしいことですが、長年、教員として児童に広島原爆について「教科書」を使って「資料集」を見て、授業をしていました。けれども、ずいぶんの間、実際に、広島に行ったことはありませんでした。実際に、広島「平和祈念資料館」を見学し、原爆ドームを目の当たりにすると、自分が、「教科書」や「資料集」で語っていたことは、「本当に十分だったのか」の思いを持ちました。実際のものに触れずに、うわべだけを「伝えていた」だけだったのかもしれませんが。反省とともに、自分自身が「本当の感想」を「心からの思い」を子供たちに語れるように、自分自身が体験的に学ぼうと思いました。人は、生涯、学び続けなければなりません。